

ビキニ水爆実験とは 日本と世界への影響

2024
9/29 日

13:30~16:30
(開場 13:00)

参加
無料

70 年前の 1954 年 3 月 1 日、アメリカはビキニ環礁で巨大な水爆実験を行いました。第五福竜丸をはじめ多くの漁船が被ばくし、乗組員の久保山愛吉さんが亡くなりました。しかし水爆の下で被ばくさせられたマーシャル諸島の人々のことはあまり知られていません。そこで現地をたびたび訪ね、世界に発信されてきた写真家・豊崎博光さんにマーシャルの人々の被害とその後について、写真を見ながら語っていただきます。その後、この水爆実験から始まった杉並の原水爆禁止署名運動について語りあいます。

▲水爆ブラボー実験でできた直径約 2 キロメートル、深さ約 60 メートルのクレーター (撮影 豊崎博光)

第一部 講演

「ビキニ水爆実験とは ～日本と世界への影響～」

豊崎 博光 (90 分)

第二部 パネルディスカッション

「杉並から始まった原水爆禁止署名運動」(60 分)

市田 真理 竹内 ひで子 安井 節子 林 美紀子

会場 セシオン杉並 3 階
第 8・9・10 集会室

参加費無料 事前申込不要
(直接会場へお越しください)

定員 130 名 (当日先着順)

お問い合わせ

杉並ユネスコ協会

小寺 隆幸 koderaunesco@gmail.com

山田 祐子 080-5090-7340

主催 杉並ユネスコ協会

共催 杉並区教育委員会

▼1985 年 5 月、ロンゲラップ島の人びとは放射能から逃れるために故郷の島から避難した (撮影 豊崎博光)



東京メトロ丸ノ内線 東高円寺駅より徒歩 5 分
新高円寺駅より徒歩 7 分

豊崎博光

とよさき・ひろみつ

Profile



フォトジャーナリスト。1948年、横浜市生まれ。1978年、アメリカが核実験を行ったマーシャル諸島のビキニ島住民や、水爆実験の死の灰をあびせられたロンゲラップ島住民などの取材を始めた。以降、世界各地の被ばく者を取材されている。元第五福竜丸平和協会専門委員。

著書：「アトミック・エイジ 地球被曝はじまりの半世紀」、「グッドバイ ロンゲラップ 放射能におおわれた島」、「蝕まれる星・地球 ひろがりゆく核汚染」、「写真と証言で伝える 世界のヒバクシャ1・2・3」など多数。



▲被ばくしたイロシ・ケベリさん。1954年3～5月頃、被ばく後に収容されたクワジエレン島のキャンプで撮られたもの。死の灰により、おでこや首のまわり、脇の周辺、内股、足先に火傷ができ、皮膚がむけた状態を、アメリカの医師が検査しているところ（提供 アメリカ国立公文書館）

第二部 パネルディスカッション 「杉並から始まった原水爆禁止署名運動」

ビキニ水爆実験で第五福竜丸をはじめ多数のマグロ漁船が被ばくし、大量の汚染マグロが廃棄される中で、杉並の魚屋・菅原健一氏が食の安全を求め水爆実験即時中止の署名運動を始めました。杉並区内では「水爆禁止署名運動杉並協議会」（議長安井郁・杉並区立公民館長）が「杉並アピール」をもとに署名運動を推進しました。この運動は全国統一的なものとなり、3000万筆余の署名が集まりました。

そして翌1955年8月6日、「第1回原水爆禁止世界大会」として実を結びました。この取り組みの中で、被爆者の方々も声をあげ、1956年原水爆被害者団体協議会を結成し、それ以降、全国で、世界で証言を続けています。そのことが2017年の核兵器禁止条約につながったのです。

当時の杉並の人々の思いを受け継ぎ、核なき世界をめざして、今、私たちができることを考えていきたいと思えます。

パネリストは市田真理さん（東京都立第五福竜丸展示館学芸員）、竹内ひで子さん（菅原健一さんの娘）、安井節子さん（安井郁さんの長男の妻）、林美紀子さん（杉並ユネスコ協会顧問）です。



▲第五福竜丸の船体（提供 都立第五福竜丸展示館）

- ▶ 左：杉並公民館で署名を集計する杉並の婦人たち（1954年撮影）
- 右：水爆禁止署名運動のポスター（提供 杉並区立郷土博物館）



水爆禁止 署名運動

生命と幸福を 守りましょう

杉並協議会



70 years since 1954
SUGINAMI UNESCO ASSOCIATION